

## 弘道館に込めた斉昭の思いをたどる

- \***「弘道館」扁額** 正庁玄関  
斉昭書。裏に「天保十二年仲冬日書」とある。仲冬は陰暦の11月。
- \***弘道館記碑拓本** 正庁正席の間  
斉昭撰文および書。「弘道館記」は弘道館の建学の精神と教育方針を記したもので、天保9年(1838)に斉昭の名で公表された。草案の作成は藤田東湖が命ぜられ、学者らの意見を取り入れながら、一字一句に心血が注がれて完成した。石碑は、弘道館公園内の八卦堂に納められている。
- \***「游於藝」扁額** 正庁長押  
斉昭書。「游於藝」は、『論語』の一節「子曰 志於道 據於徳 依於仁 游於藝(子曰く道に志し 徳に拠り 仁に依り 芸に遊ぶ)による。「芸に遊ぶ」の芸は六芸、礼(礼儀作法)、楽(音楽)、射(弓術)、御(馬術)、書(習字)、数(算数)をさす。文武にこりかたならず、悠々と芸を究めるという意味。
- \***「至善堂」扁額** 至善堂御座の間  
斉昭書。「至善」は、『大学』の一節「大学之道 在明明徳 在親民 在止於至善(大学の道は明徳を明かにするに在り 民に親しむに在り 至善に止まるに在り)による。「至善に止まる」とは完全無欠な善をよりどころとして行うという意味。
- \***要石歌碑拓本** 至善堂御座の間  
斉昭詠および書。「行末毛 富美奈太賀幣曾 蜻島 大和乃道存 要那里家流(行く末も踏みなたかへそあきつ島 大和の道ぞ要なりける)と読み、日本人としての進むべき道が示されている。石碑は孔子廟の南側に建っている。
- \***種梅記碑拓本** 至善堂溜  
斉昭撰文および書。斉昭が弘道館や偕楽園に梅を植えさせた趣旨が書かれている。石碑は八卦堂の南側に建っている。
- \***学生警鐘** 国老詰所[資料展示室]  
斉昭書および作。表面に「物学布 人乃為仁登 佐也加爾毛 暁告流 鐘能古慧鈍(物学ぶ人のためにと さやかにも 暁つぐる鐘の声かな)という和歌が、内面に鐘を鑄造した由来が記されている。鐘楼は孔子廟の北側にある。

# 弘道館館内案内シート

特別史跡  
国指定重要文化財

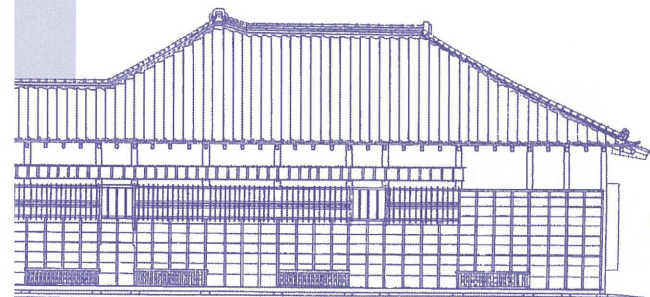
## ◇弘道館の建築について

弘道館は、水戸藩第9代藩主徳川斉昭(1800~1860)によって創立された藩校です。天保10年(1839)城内三の丸の地に学校の敷地が決まり、翌年から建設工事が開始され、天保12年(1841)7月に落成しました。

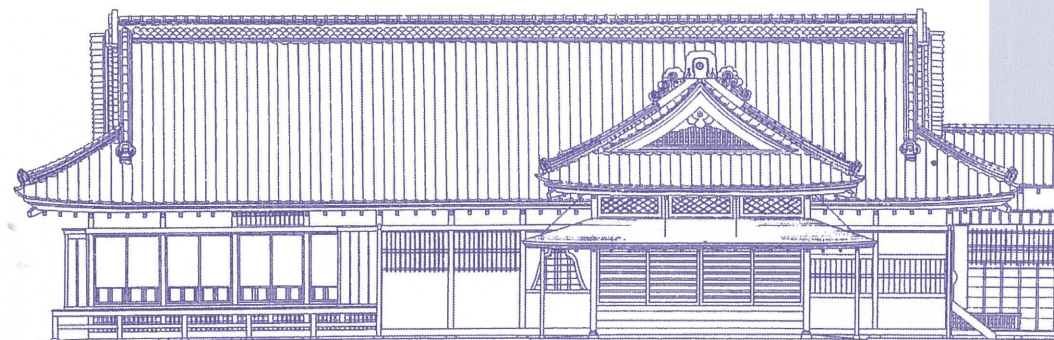
正庁は学校御殿ともいい、藩主が臨席して文武の試験を行ったところで、至善堂は藩主の御座所(休息所)でした。それぞれ床、棚を備え、面取角柱、長押(なげし)をまわした書院造で、長廊下によって結ばれています。正庁には付書院もあります。

屋根は、正庁の玄関左右側面を入母屋造とし、正庁の背面と至善堂は寄棟造で、すべて棧瓦葺(さんがわらぶき)で輪違瓦(わちがいかわら)が組み込まれた大棟(おおむね 屋根頂部の水平な棟)の大きいことが地方色を示しています。また、玄関の軒下には、柿葺(こけらぶき)の下屋根がついているのが特徴です。下屋根は独立柱で支え、さらに吊鉄物で上方に釣っています。

江戸時代末期には、各地に藩校が造られました。現存する遺構では、この弘道館は規模が大きく、しかも整ったものです。弘道館の建築は、書院造建築の正統を継ぐものですが、大柄で簡素な手法には、悠々とした趣があって、大藩の風格を感じさせるものがあります。  
[参考:『茨城の文化財 第39集』]



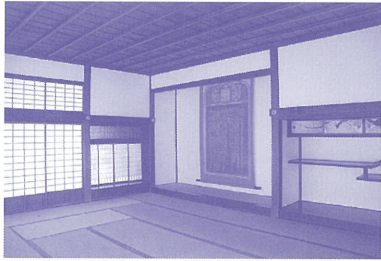
弘道館事務所  
〒310-0011 水戸市三の丸 1-6-29  
TEL 029-231-4725



弘道館正面図



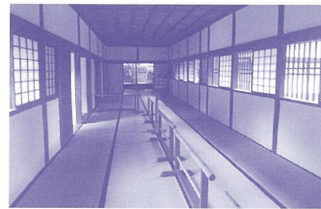
# ■ 弘道館平面図



弘道館記碑拓本

## 【正庁正席の間】

藩主が臨席して試験や諸儀式が行われた。対試場での武術の試験もここからご覧になった。



## 【十間畳廊下】

正庁と至善堂をつなぐ廊下。藩主の警護をする家臣の控えの間。

板廊下 (復元) 便所 (復元)

「至善堂」扁額  
要石歌碑拓本



## 【至善堂御座の間】

藩主の御座所 (居間、休息所)。明治元年に徳川慶喜が恭順謹慎した部屋。

## 【至善堂二の間・三の間・四の間】

藩主の諸公子の勉強場所。のちに第15代将軍となる徳川慶喜もここで学んだ。



葵の紋が入った畳縁



「遊於藝」扁額

## 【正庁諸役会所】

来館者控えの間。



松延年筆「尊攘」

## 【正庁二の間・三の間】

重臣らが列席して試験や諸儀式が行われた。正席の間・二の間・三の間をあわせて講堂としても使用された。

湯殿及び便所 (復元)

畳廊下

十間畳廊下

畳廊下

畳廊下

畳廊下

畳廊下

畳廊下

畳廊下

畳廊下

畳廊下

畳廊下

畳廊下

畳廊下

畳廊下

畳廊下

畳廊下

畳廊下

畳廊下

畳廊下

畳廊下

畳廊下

畳廊下

畳廊下

畳廊下

畳廊下

畳廊下

畳廊下

畳廊下

畳廊下

中庭

中庭

中庭

中庭

中庭

中庭

中庭

中庭

中庭

中庭

中庭

中庭

中庭

中庭

中庭

中庭

中庭

中庭

中庭

中庭

中庭

中庭

中庭

中庭

中庭

中庭

中庭

中庭

中庭

番頭詰所

## 【番頭詰所】

藩主を警護する番頭 (大番組の長) が詰めた。

大番組詰所

## 【大番組詰所】

藩主を警護する大番組が詰めた。

諸役会所

諸役会所

諸役会所

諸役会所

諸役会所

諸役会所

諸役会所

諸役会所

諸役会所

諸役会所

諸役会所

諸役会所

諸役会所

諸役会所

諸役会所

諸役会所

玄関

玄関

玄関

玄関

玄関

玄関

玄関

玄関

観覧者出入口

観覧者出入口

観覧者出入口

観覧者出入口

観覧者出入口

観覧者出入口

観覧者出入口

観覧者出入口

観覧者出入口

観覧者出入口

## 【正庁玄関】

広い式台 (しきだい) が設けられている。舞良戸 (まいらど) に明治元年弘道館の戦いの際の弾痕が残る。

舞良戸の弾痕

舞良戸の弾痕

舞良戸の弾痕

資料展示室

資料展示室

資料展示室

資料展示室

資料展示室

資料展示室

資料展示室

資料展示室

資料展示室

資料展示室

資料展示室

資料展示室

資料展示室

資料展示室

資料展示室

資料展示室

資料展示室

資料展示室

資料展示室

資料展示室

種梅記碑拓本

種梅記碑拓本

種梅記碑拓本

種梅記碑拓本

種梅記碑拓本

種梅記碑拓本

種梅記碑拓本

種梅記碑拓本

種梅記碑拓本

種梅記碑拓本

種梅記碑拓本

種梅記碑拓本

種梅記碑拓本

種梅記碑拓本

種梅記碑拓本

種梅記碑拓本

種梅記碑拓本

種梅記碑拓本

種梅記碑拓本

種梅記碑拓本

種梅記碑拓本

種梅記碑拓本

種梅記碑拓本

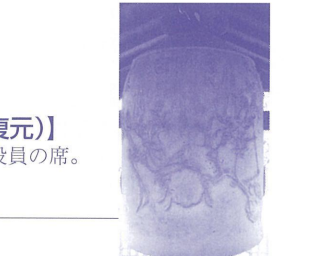
種梅記碑拓本

種梅記碑拓本

慶喜ゆかりの長持



農人形



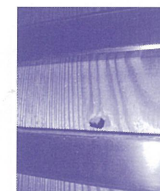
学生警鐘

音声ガイド

建坪 245.32坪

\*復元部分 (国老詰所・湯殿・便所) 含む

畳数 302.5畳



舞良戸の弾痕